

炭 竈 ふく代 議員



高齢者や障害者に、緊急連絡先を記載したカード交付を

問

災害時要援護者の取り組みについて聞く。

- (1) 高齢者の緊急時に、どんな手立てを採っているか。
- (2) 熊本県宇土市は、高齢者や障害者が緊急時、情報を伝える手段として、(希望者に)氏名等を記載したカードの交付を行っている。市もカードを配布してはどうか。

調査の上、取り組みを考えたい

答 介護高齢課長

- (1) 緊急通報システム【**A**】をすでに立ち上げており、見守り、居場所確認等も含めた給食サービス事業も実施している。
- また22年度より、救急医

療情報キット【**B**】を導入している。

A 一人暮らしの高齢者および身体障害者等を対象に、緊急時に備え、無線発信機や通報機器を貸与する。
市が定める所得税非課税等の諸要件がある。

B 持病や薬等の医療情報や緊急連絡先等をメモし、20cm程度のプラスチック容器に入れ冷蔵庫に保管する取り組み。万一の際、迅速な救命活動に役立つ。市は一人暮らし高齢者を対象に、



救急医療情報キット

- 希望者に配布している。
- (2) 今後は医療機関等の意見も聞きながら、カードの取り組みを考えたい。
- 他市町の状況、配布対象者、配布方法も調査していきたい。

市と学校図書館のネットワーク化を

問

学校図書館における人的、物的整備の推進について聞く。

- (1) 学校図書館の蔵書数は、国の定めた標準冊数と比較し、どんな状況か。
- (2) 学校図書館のネットワーク化について、市の考えはどうか。
- (3) 小中学校の司書教諭は、学校授業と兼務であると思う。専任化の考えはあるか。
- (4) 弥生小学校は19年から、英語活動授業の拠点校として(国に)指定され、多くの成果があったと聞いた。

この成果を生かし、他校

で取り組む計画があるか。

システム構築に向け努力したい

答 学校教育課長

- (1) 4月現在、7小学校で約9万冊、国の示す標準冊数に対する充足率は161.9%である。

3中学校は約3万8千冊に対し、充足率は109.9%である。

- (2) 現在、学校図書館の児童書のデータ化はされていないので、今後、各学校図書、市立図書館とのネットワークシステム構築に向けて、努力していきたい。
- (3) 財政的に困難であるが、現在週1日程度、図書支援員を配置し支援に当たっており、今後も事業を継続していきたい。
- (4) 研究成果を活用できるよう、英語活動推進委員会を各小学校で発足し、指導方法の研究等を進め、取り組みを始めている。